

## 審議会会議録

1 会議の名称	平成 28 年度第 2 回富津市子ども・子育て会議
2 開催日時	平成 28 年 9 月 28 日 午後 1 時 30 分～午後 4 時 40 分
3 開催場所	富津市役所 502 会議室
4 審議等事項	(1) 子ども・子育て支援事業計画の平成 27 年度 実施結果について (2) 富津市の今後の子ども・子育て支援につい て (3) 公立保育所の適正配置について (4) その他
5 出席者名	委員 鵜田勝、宮里幸樹、井上久吏子、白井佳恵、渡邊 武雄、高橋多賀子、鈴木眞廣、岩瀬志帆、岡村京 子、渡辺務、竹谷覚治 事務局 磯貝健康福祉部長、下間子育て支援課長、小柴保 育係長、中山子ども家庭係長、田嶋副主査、学校 教育課三浦指導主事、圓川総括保健師
6 公開又は非公開 の別	公開 ・ <del>一部非公開</del> ・ <del>非公開</del>
7 非公開の理由	
8 傍聴人数	1 人 (定員 5 人)
9 所管課	健康福祉部子育て支援課子ども家庭係 電話 0439-80-1256
10 会議録(発言の内 容)	別紙のとおり

平成 28 年度第 2 回富津市子ども・子育て会議 会議録

発言者	発言内容
事務局：中山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の確認</li> <li>1 開会</li> <li>・会議の成立</li> </ul> <p>相澤委員、平野委員、松倉委員 3 名が欠席の、岩瀬委員は遅れるとの連絡あり。10 名の委員の方が出席しており過半数を超えているので、子ども・子育て会議設置条例第 6 条第 2 項の規定により、会議は成立する旨報告。</p>
事務局：中山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の公開</li> </ul> <p>この会議は、富津市情報公開条例第 23 条の規定により公開する。</p> <p>傍聴人 1 名あり。</p>
渡辺会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>2 会長挨拶</li> </ul> <p>先日猪口元少子化担当大臣との勉強会があり、内閣府職員から子ども子育て支援政策のレクチャーを受けた。</p> <p>国は待機児童解消に目が向いていて、待機児童がない地域には手が及んでいないと感じる。使い勝手のいい具体的な方法が見えづらい。富津市として何ができるか念頭において考えてほしい。</p>
渡辺会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>3 会議録署名人の指名</li> <li>4 議題</li> </ul> <p>会長のほか、宮里委員にお願いする。</p>

<p>渡辺会長</p> <p>事務局：田嶋副主 査</p>	<p>&lt; (1) 子ども・子育て支援事業計画の平成 27 年度実施結果について &gt;</p> <p>議題 (1) 子ども・子育て支援事業計画の平成 27 年度実施結果についてを議題とする。</p> <p>事務局の説明を求める。</p> <p>《資料 1 について説明》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 27 年度の計画事業の実施状況を、担当課に照会し、まとめたもの。</li> <li>・大きな変更点は、10 ページのピッコロ学級が参加者少数で中止し、平成 27 年度で廃止した。</li> </ul> <p>○意見、質疑</p>
<p>鈴木副会長</p> <p>渡辺会長</p>	<p>9 月に浦安で全国子育て支援センターセミナーがあり、三重県名張市の取り組みが発表された。</p> <p>人口 8 万人で年間 600 人生まれている。出生率 0.74%。富津市では 4.5 万人で 200 人生まれ、0.44%。浦安市は 16 万人の人口で 1360 人生まれ、0.8%。富津市は半分しか生まれていない。若い世代の人口が少ないと感じた。</p> <p>人口ビジョン 2040 の推計では 3 万人になる。かなり大きな問題と感じている。</p> <p>NHK の番組で、東京ですら 12 年後には人口が減るといっていた。地方も限界集落がどんどん増え、行政サービスが行き届かない。行政としてやれないところを、地域に財源を渡して、自主的に割り振りを住民に任せるところもある。</p> <p>&lt; (2) 富津市の今後の子ども・子育て支援について &gt;</p> <p>議題 (2) 富津市の今後の子ども・子育て支援についてを議題とする。</p> <p>事務局の説明を求める。</p>

<p>事務局：下間課長</p>	<p>《資料 2 及び参考資料について説明》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回話し合った内容を取りまとめた。</li> <li>・ これに基づいて意見を伺い、事業をやるかやらないかを含め、市で来年度の予算要求に反映させたい。</li> <li>・ 今回は①学童保育クラブと②有効な情報提供について意見を伺いたい。</li> <li>・ ①学童保育クラブが計画通りに設置できなかった課題を踏まえ、これまで保護者会等の運営に市が補助金を交付する方式を見直したい。</li> <li>・ 館山市のように、市が設置し、民間に運営委託する公設民営、指定管理、従来の保護者会運営だが共通事務のみ民間委託する方式、広いエリアをカバーするため保護者会運営＋送迎補助の方式を提案する。市としては公設が良いと考えている。</li> <li>・ クラブのスケールや既存クラブとの整理をどうするか。現在保護者会で運営されているクラブをそのままとするか。館山市は既存のクラブから希望を聴き、6つのクラブは公設民営委託に、1か所保護者会運営を継続している。</li> <li>・ 新規設置場所はどこが有効か。子育て支援課の考えでは、計画どおり天羽地区に設置する必要があると考えている。</li> </ul> <p>②有効な情報の届け方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報発信の方法として、他市の取り組み状況を収集。資料の「きずなメールプロジェクト」「岡崎市のすくすくメール」は、NPO 法人きずなメールプロジェクトから登録されたアドレスにメールが送られる。こうしたメールで情報配信を実施している市もあるので、メール配信も選択肢に含めるこ</li> </ul>
-----------------	--

<p>渡辺会長</p> <p>岡村委員</p> <p>事務局：下間課長</p> <p>岡村委員</p>	<p>とし、子育て支援センター全国セミナーにおいて鈴木副会長と私でハガキについて発表した後、出席者に意見を聞いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「メールは有効。ハガキも良いと思う」、「転出入が多いとハガキでは追いかけることが大変。メールが有効」、「ハガキを送ることはとても素敵なことだと思う。自分のところでも検討したい。」と言う意見があった。都会では住所変更を追いかける事務量が多く大変。その点メールは追いかける必要が無い。地方だとハガキは温かみがあって良いということだった。</li> <li>・これに関して鵜田委員からアンケートの提案がなされたので、協議の中で説明をお願いしたい。</li> <li>・メールとハガキそれぞれの概要をまとめたものを資料として配った。</li> <li>・他の事業については次回以降、ご意見を伺いたい。</li> </ul> <p>○質疑・意見</p> <p>話し合いを学童保育クラブ、情報をどうやって届けるのか、2点に絞る。</p> <p>市内で補助金をもらっているクラブはいくつあって、もらっていないが学童として活動している箇所は？</p> <p>平成27年度の補助クラブは4か所。遊輝塾、飯野、大貫、さぬキッズ。</p> <p>補助金を受けていないところでは、富津保育園のオレンジクラブ、青堀保育園の第1、第2の2か所ある。青堀保育園は平成26年度には補助を受けたが、平成27年度は受けていない。</p> <p>富津と青堀を学童保育クラブとして捉えていいの</p>
---	--

事務局：下間課長	か。
岡村委員	よろしい。
事務局：下間課長	名前に学童とあっても補助しなくても良いのか。
岡村委員	小学生を放課後に預かって保育していれば学童と考 えている。
事務局：下間課長	名前に学童とついていなくても放課後に小学生を預 かっていれば学童保育クラブと見ていくということ か。
岡村委員	市の認定を必要としない。補助金を交付するには届 出が必要。
事務局：下間課長	天羽地区に 1 か所というが、以前に温習舎が上総湊 駅近くでやっていた。市外でも受け入れた。今は宝代 (笹毛) でやっている。
渡辺会長	行政ではどこまで把握しているのか。
事務局：下間課長	市でも温習舎は学童と言うスタンスではないと認識 している。計画でも学童と位置づけていない。
鈴木副会長	富津や青堀の保育園の学童保育クラブが補助金をも らわない理由は？
事務局：下間課長	事業者の考え。補助基準がある。基準に合わなければ 交付できない。
渡辺会長	何をもって学童保育クラブというのか。学童保育に もいろいろな形があるのではないか。
岡村委員	子どもが帰宅して生活する場として変わらない。そ れによって天羽地区の新設の考え方も変わると思う。
井上委員	学童保育クラブとして捉えるかどうかは事業者の考 え方だろう。事業者のやっていきたいこと、市の学童 保育クラブと同じにするのはどうかと思う。
岡村委員	温習舎のようなところがあるのに、新たに学童保育 を作るのか。そういったところをアピールしても良い のでは。

渡辺会長	市外からも来ているのか。佐貫小にもあるが、そことの絡みは？
井上委員 事務局：中山	佐貫小の子も恩習舎を利用している子もいる。 温習舎への移動はどうしているのか。
井上委員	湊にあったときは湊小学校から自力で通っていた。竹岡や金谷の子は祖父母や近所の人が送ってきた。今佐貫小は路線バスを利用している。父母が送迎できない場合は知り合い同士が助け合っている。
渡辺会長 事務局：中山	枠組みに対して意見はあるか。 市としては子どもが安全安心に放課後の時間を過ごせることが大事だと考える。できれば学校からあまり離れずに場を、市としては選択肢の1つとして用意することが大切。
井上委員	いろいろな学習塾や、スポーツ、そういったものを排除するものではない。 湊小学校区の子は、今は温習舎のスタッフが迎えに行っている。
事務局：下間	温習舎は、昨年は学童の問い合わせがあった場合紹介してもいいという話であったが、学童保育クラブではないということで認識している。
渡辺会長	共存共栄。選択が増え、その中で選べるということ でよいか。
鈴木副会長	いろいろなやり方、選び方があってよい。事業者の考え方を尊重。 保育園で学童保育をとという話があったが、スペースがなかったなので、他での立ち上げを応援した。保育園と比べて保育時間が短いので保育料の設定に割高感が有った。場所や人の問題が在ってなかなか広がらない。そこどうやって解決するか。
渡辺会長	開設方法について事務局何か意見はあるか。

事務局：下間課長	<p>担当課として天羽地区で保護者会の運営は難しいと考える。館山のような委託はどうか意見を伺いたい。</p>
井上委員	<p>保護者が作っていること知らない保護者も多い。訊けばほしいと答えるが、市が作るものと思っている。民間が入るのも1つの手。天羽地区は子どもが少なく、利用者も少ないだろう。少ない中で過ごす寂しさがあるので、できれば学区は開放して作るほうが継続すると思う。幅を持たせた設置が、子どもが増えない富津らしい設置ではないかと思う。</p>
渡辺会長	<p>事務局の中山さん、さぬキッズを立ち上げたときの話を。</p>
事務局：中山	<p>立ち上げに動いてから、いろいろな手続きが生じた。書類作成にも慣れていたのでやれた。1つの会社と同じ。正直、保護者がちょっとやってみようかということでは難しい。他のクラブと連携してやっていた。竹岡小にもあったが、子どもが減る、運営サイドの人数も減り廃止となった。簡単な話ではない。</p>
岡村委員	<p>自分も初めは保護者会のクラブに勤めていて大変さを見ていた。その後自分で立ち上げた。書類はいけても人材を集めることが大変。</p> <p>館山市では民設民営から公設民営に移管したとき、保育料に変化が生じたのか。</p>
事務局：中山	<p>移管時に平均的な線で設定したそう。公設民営は市が設定して、月1万円、8月は2万円。</p>
渡辺会長	<p>民営委託のほうが安いのか。</p>
事務局：下間課長	<p>公設のほうが安い傾向がある。</p>
鈴木副会長	<p>1万円の保育料で運営全てを賄うのか。</p>
事務局：中山	<p>保育料以外は市が負担している。</p> <p>館山市は学校の余裕教室を利用している。賃借料は発生しないが、光熱水費などの経費は公費で賄う。</p>

<p>渡辺会長 事務局：中山</p>	<p>公設と指定管理の違いは？</p> <p>指定管理の多くは事業収入という考え方があるが、保育には一定基準を保つ必要があるので、自由裁量はない。修繕や備品の購入等で市の仕様に縛られずに指定管理の裁量でやっているようだ。大きな違いはないと思う。県内では銚子市が採用している。</p>
<p>渡辺会長 事務局：中山</p>	<p>銚子市はどこが指定を受けているのか。</p> <p>情報がなかった。</p> <p>全国学童保育協議会の調査では、社会福祉協議会が一番多く、ついで NPO 法人、民間法人、運営委員会、保護者会となっている。</p>
<p>鈴木副会長 事務局：下間課長</p>	<p>既存のところも新しいルールに合わせるのか。</p> <p>既存のクラブと協議を重ねる。クラブの意向を聞きながらやっていく。</p>
<p>岡村委員</p>	<p>メリットとして公設が保護者の負担がなくて安心できる。万が一、人数が少なくなったときにも動きやすい。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>子どもを預かるのだから、事務的に要件を満たしているからいいというものではない。どう担保を取るのか。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>保育園も同じ。公設民営で市が管理責任を持てば安全性は高いと思う。</p> <p>天羽地区をどうするか。全部の小学校区でやれなければ送迎を担保する必要がある。業務委託も考えなければいけない。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>運営方法は公設民営を基本にして、委託先も品質を考慮してやるのが望ましいとする。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>天羽地区はアンケートでニーズが少なかった。隣近所の関係が濃いから何とかやって来られた。運営がやっていける人数を集める PR をしていけないと大変。</p>

渡辺会長	地域を絞ってやるのか。
岡村委員	天羽地区、竹岡、金谷では学童保育クラブらしいところは1か所もないのか。過去もないのか。
井上委員	過去は竹岡にあった。
鈴木副会長	人口減少の中、既存の施設をどう維持していくのか課題。保育所、学校をそれだけで維持していくのは大変。既存の施設をうまく活用していく。統廃合に絡む。
井上委員	竹岡と金谷の両方でも子どもが少ない。この地区に絞って学童保育クラブを作るのは非効率だと思う。子どもを安全にその場所に届ける。ファミリーサポートセンターの活用。天羽地区を細かく分けるのは先々続くのか不安が大きい。
岡村委員	今現在ある学校に立ち上げるのが一番。送迎でよその学区の子でも良いとすれば広くできる。 今は学区内しか入れないのか。
事務局：下間課長	規約で定めていれば大丈夫。
岡村委員	学校や行政が言っている訳ではないのか。
井上委員	違う学校の子が入り出して学校側の管理で問題は出ないのか。
事務局：中山	規約で特別に受け入れ可能としていれば、入れる。断らなくてはいけないことはない。学校と学童のコミュニケーションが取れていれば大丈夫ではないか。どんな子が利用しているか名簿の提出もする。調整が必要。
事務局：三浦指導 主事	大貫小学校にいるときに学童を見ていた。学校が学童保育クラブに指示したことはほとんどない。
磯貝健康福祉部長	佐貫小学校に開設のとき、施設管理の担当課長だった。学校施設の利用には縛りをかけた。利用箇所の指定、仕切りを設けるなど、それをクリアすればできる。
竹谷委員	大貫小学校は別棟。すみ分けている。夏休みに増え

	<p>た場合は名簿を提出してもらっている。関係作りをやっていけばうまくいくと思う。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>以前にニーズ調査をしたものを復習として、レクチャーしてほしい。</p>
<p>事務局：下間課長</p>	<p>湊小学校に学童保育クラブを開設したときに利用するか訊いた。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>意見の集め方が今回とマッチしていない。</p>
<p>事務局：下間課長</p>	<p>平成 27 年 9 月に湊幼稚園で学童保育を実施したらということで、湊小 1～5 年生の保護者 112 人に配布し、アンケートをとった。94 人から回答を得た。利用したいが 1 割（10 人程度）くらい。利用しないは半数。湊小で 10 人程度の利用なのでニーズはそこそこあるが、湊小でこの程度なら竹岡、天神山はもっと少ないのではないか。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>一般的な考えればそうであろう。 優先順位とすれば湊小学校を中心にやるべきだという答申しか出しようがない。</p>
<p>井上委員</p>	<p>アンケートした時には公設民営は出ていない。</p>
<p>事務局：下間課長</p>	<p>このアンケートは湊幼稚園が学童保育をやったらということで訊いている。場所が学校なら利用が増えるかもしれない。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>幼稚園利用していなかった子は利用しにくい。</p>
<p>岡村委員</p>	<p>迎いの距離も考えないと。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>各学校でアンケートを実施し、検討する。</p>
<p>事務局：下間課長</p>	<p>天羽地区全体で 1 か所できればいいと思っている。それには児童の多い湊小がいいと思っている。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>来年 4 月からの希望があって動き出しているのとは違うので、公設民営を湊小で立ち上げというのを説明して、利用があるのか調査し、平成 30 年度開設に向けて準備していくで、どうか。</p>

磯貝健康福祉部長	<p>どういう希望、ニーズがあるのか踏まえた上で、平成 30 年度予算要求して進めていければいいと考えている。</p>
宮里委員	<p>間があるというのであれば、大佐和地区、富津地区これから必要とされる地区でもニーズ調査をやれないか。</p>
事務局：下間課長	<p>検討する。</p>
井上委員	<p>吉野地区にもない。</p>
鈴木副会長	<p>吉野小学校に学童保育クラブがないから、大貫小学校に学区外で通っている子もいる。新しいクラブは使い勝手が良くなるように考えてほしい。</p>
渡辺会長	<p>複数のクラブを1つの運営主体でやってはいけないということはないと思うが、いかがか。</p>
委員席	<p>良い。</p>
渡辺会長	<p>既存クラブとの整理。保護者会で続けるというのは尊重するというスタンスでいいか。</p>
委員席	<p>よろしい。</p>
<p><b>5 分間休憩</b></p>	
渡辺会長	<p>②有効な情報の届け方について協議する。</p> <p>鵜田委員からアンケートの実施について提案いただいたので説明を。</p>
鵜田委員	<p>自分が民間のメール配信サービスを利用していた。妊娠中は毎日、出産後は折に触れ、メールが届く。これに助けられた経験がある。メールとは形式が違うがハガキのアイデアに共感したので、実現に向けて何ができるかということで、子どもの保護者の委員で話し合った。まずはニーズをつかむ必要があるのでアンケート案を作った。</p>

	<p>やりやすさ、必要な情報の違いからマタニティ期と未就学児に分けた。</p> <p>実施の詳細は会長と調整しながら進めさせてもらいたい。</p> <p>ハガキの提案意図は必要な情報を必要としている人に届けることではなく、見守っていますというメッセージを送り続けることだとすると、このアンケート結果をもってしてやらないと決めることではないと思う。</p>
渡辺会長	アンケート案で気づいたことは後ほど連絡もらって、4人の委員と会長とで検討して実施するでよいか。
鈴木副会長	<p>お母さんたちの育児不安を引き受ける人がいなくなった。その代わりに子育て支援センターや保育園がある。何が何でもハガキが良いわけではない。メールは便利な道具。ハガキは全員に届くというメリット。</p> <p>アンケートはどのくらいの期間やるのか。</p>
渡辺会長	具体的には4人の委員と事務局で決め、実施するでよいか。
委員席	よい。
渡辺会長	次に富津市に適した届け方はどれが良いか議論したい。
鈴木副会長	<p>名張市の資料に結婚から学童期まで、支援策を帯にした表がある。手薄な部分が空白で現されていて、ここを強化する取り組みが紹介されていた。名張市は地域を15に分けて、『まちの保健室』として拠点を作り、『チャイルドパートナー』を養成し、支援している。</p> <p>手薄なのは富津市も同様であろう。妊娠期から行政とつながって行って、支えられている実感が持てるのが安心として必要。広報紙もあるが全家庭には届かない。メールの便利さもある。全家庭に届くという方</p>

井上委員	<p>法はハガキしか思いつかなかった。</p> <p>メールだと後でいいやと思うが、ハガキだとパッと全部が目に入る。目にする頻度が上がって関心を持ってもらえると思う。</p>
鴫田委員	<p>試算してみた。ハガキはひと月1回、800人を対象として50～70万円程度。</p> <p>新規事業として80万円を要求するにはハードルが高い。説得する材料としてアンケートを考えた。</p>
井上委員	<p>こういうものは効果がすぐに出ない。地道に続けることで仲間作りができたりする。</p> <p>10年20年先に自分の子どもが戻ってきて子どもを生む、そういう長い話。</p>
宮里委員	<p>ハガキから先につながる。家に引きこもりがちなお母さんを外に引っ張り出せるようなものがあると良い。何でも話せる場、子どもたちがいろいろな人と関わりを持てる場につながる。先につながることが大事。</p>
岡村委員	<p>ハガキもメールもどちらもできればいい。温かいものがほしい。</p> <p>きずなメールは母親以外も登録できるので、周りの人の理解につなげることができる。お父さんたちの参加。時代によって変わってきている情報も見ながら一緒に話ができる。</p>
鴫田委員	<p>メールを利用している。自分で見つけて登録する人は積極的に情報を取りにくる。メール登録しない人にハガキを送るでも良いと思う。</p>
渡辺（武）委員	<p>月齢等の管理は大きな手間だと思うが、誰がやるのか。</p> <p>ママではなく、パパに影響があると思う。メールはたくさん来るのでさっと流されてしまう。物で残るほうが良い。</p>

鈴木副会長	<p>以前のゆめーるは出生から2歳までだったが、今回は妊娠期から3歳までやればよい。3歳になれば保育園や幼稚園に委ねることができる。</p> <p>妊娠期にどんなタイミングで、何回出したらいいか、健康づくり課とも相談していない。</p>
渡辺会長	<p>基本的には直接文書で渡るハガキの方がいい。メールはドライ。見過ごしがち。</p> <p>その先につなげるイベント情報を送る。ハガキで実施するという方向でよいか。</p>
委員席	<p>良い。</p>
渡辺会長	<p>&lt; (3) 公立保育所の適正配置について &gt;</p> <p>議題 (3) 公立保育所の適正配置についてを議題とする。</p> <p>事務局の説明を求める。</p>
事務局：小柴係長	<p>《資料3について説明》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富津市公共施設等総合管理計画を平成28年3月に策定した。各公共施設の整備計画を作成している途中。</li> <li>・資料の公立保育所の現状 基本的には現在の施設の現状を考えて、統廃合を含めて計画を立てている。</li> <li>・ほとんどがコンクリート造、7か所のうち6か所では耐用年数を迎えていない。1か所金谷保育所が木造、昭和50年建築の古い建物。耐用年数も19年過ぎている状況。</li> <li>・建物の更新にかかる費用の試算で1億2千万円位。今の場所に建替えてこのぐらいかかる。</li> <li>・金谷保育所は津波浸水予想域に入っているため、現在の場所に建替えは考えられない。</li> <li>・資料2枚目以降、各地区の児童数を平成24年4月か</li> </ul>

	<p>ら1年ごとに載せた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整備計画案は、金谷保育所の廃止を考え、竹岡保育所に集約する計画で考えている。</li> </ul> <p>ご意見をいただきたい。</p>
鈴木副会長	<p>○質疑・意見</p> <p>金谷保育所は建物の使用年数を見てもかなり経っている。津波が心配で、そこに更新できないことは誰が見ても分かる。金谷は特殊な存在としても他の園が悩ましい。保育所として維持していくという視点だけでなく、他の利用も含めた使い方を考えていく必要がある。単純に子どもがいないからこれは廃止統合というのは短絡過ぎると思う。</p> <p>保育所としては存在できなくても別の利用をしていくと建物も活かされるのでは。</p>
渡辺会長	<p>公共施設の再配置を今まさに検討している。今ここにある施設を有効に活用していくことが目的。</p>
鈴木副会長	<p>統廃合して、学校が無くなると地域の核になるものがなくなる。若い人がそこで生み育てるという発想もなくなるだろう。地域の核として、学校としては無理でも他のものを加味することで、学校としても残せるし、他の活用もできるのではないか。</p>
渡辺会長	<p>&lt; (4) その他 &gt;</p> <p>議題(4)その他として、委員の皆さんから何かあるか。</p>
井上委員	<p>アンケート案を話し合ったときに出てきたことを提案したい。</p> <p>この子ども・子育て会議が知られていない。富津の子育てをどうしたらよいか、実際に子育てしている人、</p>

	<p>一段落した人、これからの人に富津の子育てこんなことしているということを知ってもらいたいと思ったのがスタート。</p> <p>つながる場、語り合う場が無い。自分たちでやれること、お金や時間をかけずに語らい場を設けてみたい。語り合う内容は子育てで困っていることやあったらいいと思うことなど、自由に意見や考えを分かち合う。結論を出すのではなく、心の中のことを出す場所があったらいい。次につながるステップ、足がかりになるかもしれない。子育ての生の声を集めて市につなげ、市と市民をつなげ、その中で解決策が見いだせるかもしれない。交流の内容を子育て世代に伝える。ハガキや広報紙に載せることもできると思う。</p> <p>11月の子どもまつりにテント1張り程度、今子育て会議でしていることやファミリーサポートセンターのPR等を掲示板のようにして見せるブースを設けたい。子育ての語り場をモデルケースとしてやってみたい。委員の4人と周りのお母さんたちに声をかけ、30分程度でやってはどうかと考えている。</p>
渡辺会長	語り場はお母さんやお父さんが対象か。子供が対象か。
井上委員	お父さんお母さんが対象だが、意見が言えれば子供も制限しない。誰でも。
渡辺会長	おひさま広場は公立保育所か。重なる気がするが、違うのか。幼稚園や全体で集まれということか。
井上委員	いろいろな世代の人に語ってもらいたい。
渡辺会長	語り場の設置は子ども・子育て会議として設置するのか。
井上委員	有志の活動として実施するほうが良いか意見を聞きたい。

岡村委員	<p>以前、市民会議で子ども・子育て会議を知らない人がいた。会議自体をいろいろな人に知ってもらいたい気持ちは分かる。しかし、語り場を富津市子ども・子育て会議でやるとなると支障があるのでは。幅広い語り場はこの会議とは別にやって、そこでこの会議を知らせていくで良いのでは。</p>
宮里委員	<p>市の子育て支援をいろいろな人が話し合っているが、それ自体保護者は知らない。そもそも本当に保護者が必要としているものは何だろうと考えたとき、生の声を拾いきっている上での会議なのか、疑問に思った。実際の子育てしている人の生の声で話し合いたいと思い、語り場を提案した。</p>
事務局:中山	<p>語り場と子育て支援センターとの整理は。子育て支援センターの中でそうしたことが行われていると思っていたが。</p>
井上委員	<p>子育て支援センターは平日日中に限られている。未就園児が多い。限定したくない。学校や保育園でも悩みを抱えて生活している人もいるだろう。</p>
事務局:中山係長	<p>想定としては休日や時間外（夜間）か。</p>
井上委員	<p>いろいろなパターンがあってよいと思う。</p>
岡村委員	<p>公民館だと貸館に時間制限がある。</p>
鈴木副会長	<p>子どもまつりに来るなかで、マタニティや乳幼児が寄れるところがあるのはいいことだ。</p> <p>時間がない中どうやって準備するのか。</p>
渡辺会長	<p>担い手、誰が何をやるのか。リーフレットやパネルを作るのはどうするのか。</p>
井上委員	<p>大きな模造紙 2, 3 枚に書く程度。リーフレットは次回の告知チラシのこと。ファミリーサポートセンターなども今あるチラシを活用。</p>
渡辺会長	<p>ブースの締め切りはないのか。</p>

事務局：中山	<p>実行委員会は始まっている。下話はしてあるが、どの程度のスペースが必要か分からないのでこれから相談。</p>
渡辺会長	<p>他の団体だと畳 1 枚程度のパネルに活動の写真などを貼り展示している。その前にテーブルを置き PR している。</p> <p>当日は小中学校の展示があるので、人が多く来場する。活動を知ってもらうにはいい PR になる。</p> <p>スケール感を公民館と相談して。</p>
事務局：中山 渡辺会長	<p>申込者は誰になるのか。</p> <p>子ども・子育て会議の有志であれば、事務局は構わないか。</p>
事務局：下間課長	<p>会議設置条例で法第 77 条の事務をと規定されている。調査審議、会議に保護者の意見を反映させるために聴くことにすれば良いのではないか。</p>
磯貝健康福祉部長	<p>条例、法律に基づいている。この会議でどんなことをするか決められている。提案は会議にそぐわない。有志ならできるとは思う。</p>
渡辺会長 鈴木副会長	<p>であれば、有志という形でやってほしい。</p> <p>子ども・子育て会議委員有志なら良いのか。</p>
渡辺会長	<p>事務局と主催者と協議してやってほしい。</p> <p>他にその他として事務局から何かあるか。</p>
事務局：田島副主 査	<p>ファミリーサポートセンターの 8 月末の登録会員数を報告する。登録 51 人。お願い会員 34 人、まかせて会員 13 人、どっちも会員 4 人。</p> <p>実施状況は依頼が 17 件、キャンセルがあり実際に実施は 8 件。</p>
事務局：中山係長	<p>第 3 回会議の開催を 12 月に予定している。会議開催は後日文書でお知らせするのでよろしく願います。</p>

渡辺会長	本日の日程は終了した。以上で閉会とする。 16時40分 閉会
------	-----------------------------------